

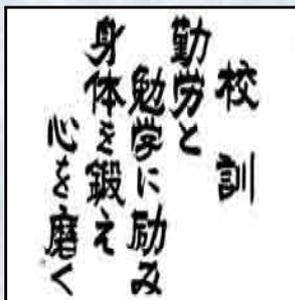
高

市高だより

閉校記念号



航空写真



行基町校舎

沿革

- 明治 40. 3.30 伊丹町立裁縫学校設置の件、兵庫県知事より認可される
- 昭和 16. 3.31 伊丹市立高等家政女学校の設立を認可される
- 21. 3.14 伊丹市立高等女学校に組織変更が認可される
- 23. 3.31 伊丹市立高等学校に変更
- 25. 9. 1 伊丹市立高等学校に定時制併置
(普通科3学級・家庭科1学級)
- 26. 2.20 校歌制定(作詞:荒木良雄、作曲:永井幸次)
- 34. 4. 1 家庭科募集停止、商業科1学級新設
- 42. 4. 1 定時制独立校となり伊丹市立高等学校と称する
伊丹市立伊丹高等学校に併設される
- 54.10.15 創立30周年記念式典を挙行、校旗新調
- 平成 1.11.12 創立40周年記念式典を挙行
- 11.10. 3 創立50周年式典を挙行
校訓「勤労と勉強に励み 身体を鍛え 心を磨く」を制定
- 12. 4. 1 三修制度の導入
- 17. 4. 1 商業科を情報ビジネス科に改編
- 24. 4. 1 校舎敷地移転(阪神昆陽高等学校敷地内)
- 27. 2.28 第62回卒業証書授与式並びに閉校式挙行



第3代生徒会長



池尻校舎



65年間ありがとうございました

伊丹市長 藤原 保幸 様



同窓生の方々にとりまして、母校の閉校は感無量のものがあると拝察致します。65年の長きにわたり培われた輝かしい歴史と伝統は決して絶えることなく、いつまでも受け継がれていくものと確信しています。また、最後の卒業生となられる皆さんは、これから自らが選んだ道で日々精励されることと思いますが、これまで学んだ知識と教えを生かし、希望に満ちた未来を一步一步、進まれることを心から期待しています。

伊丹市議会議長 山内 寛 様



65年もの長きにわたり、皆さんが築き上げてきた歴史は、未永く同窓生や地域の皆さんの心の中に生き続けることと思います。また、最後の卒業生となられた生徒の皆さんには、この伝統ある伊丹市立高等学校で学んだことに大いに誇りを持ち、次の世代を担う若者としてそれぞれの道でさらに精進を重ねられ、地域社会に貢献できる人材に育っていかれますよう心から期待しています。

伊丹市教育委員長 滝内 秀昭 様



定時制併置以来65年の歴史を刻んできた伊丹市立高等学校が閉校されることは、非常に寂しいことです。同窓生、卒業生にとってその思いは、なおさらのことでしょう。学校は、教諭は、どのような卒業生を送り出したか、卒業生にとっては本校で何を学んだかが、生涯いき続けていくことと成ります。同窓生、卒業生の皆様の市高への温かい想いをお願いすると共に、健やかで、社会に貢献されるお姿にご期待を申し上げます。

伊丹市教育長 木下 誠 様



伊丹市立高等学校の伝統は、真摯に勉学に励む姿勢や、仕事や勉学の後も部活動や生徒会活動に熱心に打ち込む姿勢であります。

真面目で誠実な姿勢は、将来の大きな財産になります。これまでお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れず、伊丹市立高等学校で学んだことを誇りに、自らの夢を實現してください。

閉校式実行委員長(同窓会長) 塩谷 雄弘 様



いつも市高だより、ありがとうございます。楽しく拝読させていただいております。特に第56号は興味深く拝見いたしました。体育祭の様子、1期生3名、2期生の女子が6名、浅利主事先生の写真など懐かしい。3期生が入って初めての体育祭ができました。当時の様子がよくわかりました。これが私たち市高卒業生の原点かも。これからスタートして60年。市高はなくなりますが、私たちの心にはいつまでも“市高”は残ります。“不滅”です。(1期生)

校長 西田 勝弘



昭和25年9月に開校されて以来、『すばらしい人材はいい地域から育ち、いい地域はいい学校を創り、いい学校はすばらしい人材を育てる』を実践してきた本校が閉校されることは誠に残念です。地域や先輩の諸先生方、多くの卒業生に感謝申し上げるとともに、このよき伝統を「県立阪神昆陽高等学校」に是非受け継いでいっていただきたいと願っています。

生徒代表(生徒会長) 益本 一馬 君



入学した時、先輩がいました。2年になったときには、後輩がいませんでした。小学校、中学校では経験したことがない不思議な気分でした。市高の4年間では校舎の引っ越しも経験しました。でも、この経験のおかげで仲間や先生と濃密な時間がとれたので、今はよかったと思っています。特に3年生の時の文化祭は最高でした。

閉校するのは残念ですが、伊丹市立高校最後の生徒として、これからの道を堂々と歩んでいこうと思います。



ソフトテニス部全国大会



生活体験発表全国大会



サマー講座中国文化



文化祭ステージ



校舎さよならセレモニー

歴代の校長先生



兼任校長 沼野一男先生



兼任校長 林 連一先生



兼任校長 福田政次郎先生



兼任校長 広瀬卯一先生



兼任校長 中林豊一先生



初代校長 大西権一先生



第2代校長 池田 稔先生



第3代校長 高島安文先生



第4代校長 北村幸男先生



第5代校長 北澤芳信先生



第6代校長 熊谷正夫先生



第7代校長 小森泰男先生



第8代校長 赤木洋之先生



第9代校長 田中英治先生



第10代校長 石井邦道先生



第11代校長 浦田 勝先生



第12代校長 平谷拓男先生



第13代校長 梶谷正治先生



第14代校長 野邊孝光先生



第15代校長 川上 清先生



第16代校長 黒石 明先生



第17代校長 赤坂進先生



第18代校長 山崎憲一先生



第19代校長 生駒勝信先生

お世話になった先生方や同窓生から

学校評議員 羽白逸生 様 「母校は心の中に」

私は、伊丹市民となり今日まで50年。その間、最初の9年間は市立伊丹高校にも勤務し、池尻地区に住み、市高移転期から学校評議員を務めて来ました。この間、絶えず念頭にありましたのは、3年後、誰一人として寂しい思いをされることなく、最後の日を迎えられることを願い、生徒の皆さん、卒業生の方々にとって、母校は各人の心の中にあり、歓び悲しみにつけても、恩師、先輩、友人、地域を思い起こして頑張っていて欲しい、の思いのみでした。

学校評議員 大澤公子 様

今日までの数年間、私は学校評議員として、伊丹市立高等学校に関わらせて頂きました。

学校行事の折、何度も心が揺さぶられる体験をいたしました。生活体験発表、答辞などきれいな言葉を並べただけのものではなかったからです。体の内から溢れ出る言葉でした。

年齢層の厚い市高での学校生活は、みなさまにとって一生の宝、思い出となることでしょう。本校で学ばれたみなさまの、ますますのご活躍を期待しております。

学校カウンセラー 荻田純久 様

本校で長年カウンセラーの仕事をして頂きました。様々な生徒さん、保護者の方、先生方と話をさせて頂いた経験は貴重なもので、こうした方々により現在の臨床心理士としての私を作り上げて頂いたと考えております。また、本校は生徒のことを親身になって考える先生方がとても多く、教育の原点について薫陶を受けたような気がします。今後は本校で学んだことを新天地で活かすことで恩返しをしたいと思っております。本当に有難うございました。

旧職員 永添 藍 様

「高校時代はあっという間」とよく言いますが、定時制高校の4年間を終えた今「やっと卒業か」という気持ちではないでしょうか。「欠時は16と2/3でした」、「授業中は寝ていました」と言っても、4年間何かを続けてそれを終えるということは簡単なことではありません。

校舎の移転で学校が遠くなった生徒も仕事でくたくたになって登校した生徒も、この価値ある卒業を自信にして、これからどんな困難に出遭っても全力を尽くしてください。

職員 蔭木恵子 様

『仰げば六甲の……』この歌を何回聴いて歌ったことだろう。校歌といえばこの歌が浮かんでくる。

定時制高校の良いところは、年齢層に幅があり、誰でも学びたいときに学べる場所だと思う。「市高は私の青春の場所やったわ〜」と60歳で卒業した生徒の言葉だ。生徒も教師も多くの思い出のある学校である。閉校してもみんなの心の中にいつまでも残ることだと思う。

卒業生 安楽万里子様

私は市高の47期生として入学しました。在学中は、とても楽しく充実した学校生活を送らせていただきました。よい先生方にお世話になり、たくさん事を学びました。私が卒業してから15年後に息子が市高に入学しました。最後に入学する生徒としてです。市高が閉校になってしまうと寂しくなりますが、市高で学んだことを誇りに頑張ってください。

これまで親子二代にわたってお世話になり本当にありがとうございました。

編集後記

縁あって本校に赴任したのが4年前。敷地移転から閉校までの「大波」を乗り越え、何とかこの日を迎えることができました。保護者の皆様には何かとご心配をおかけしたと思いますが、生徒たちは立派に成長し、巣立っていきました。現場で共に頑張ってきた教職員、陰ながら応援してくださった市教委の皆様、保護者の皆様、同窓会の皆様へ感謝申し上げます。そして、なにより様々な「波」を乗り越えた生徒たちにエールを送りたいと思います。(教頭 愛川弘市)